

大切な水資源 守って生かそう！

私たちの生活に欠かせない「水」。

人間にとって水は貴重なものであると同時に必要不可欠なものです。生物としてはもちろん、生活用水、工業用水、農業用水など、私たちはさまざまな場面で水を使っています。

小浜は古来より水と共に歩んできました。現在も市内では120本以上の掘抜き井戸（自噴井戸）が確認されており、海岸と隣接する井戸からも真水を汲むことができます。また、海底にも湧き水があり、若狭湾内の生き物を育む大切な栄養源となるなど、その恩恵は多岐に渡ります。

しかし、地下に蓄えられている地下水の量は無限ではなく、井戸の汲み上げ量などが大きな影響を及ぼすことがあります。将来も水の恵みを受受できるよう、水資源を適切に保全し、利用していくことが重要です。

■問い合わせ 環境衛生課 ☎64・6016

【地下水調査を実施】

市では、現在の小浜平野の地下水と、それを取り巻く環境の現状を把握するために、平成25年度から27年度までの3年間、市内の地下水調査を実施しました。

【利活用・保全検討委員会を立ち上げ】

調査の結果を受けて、市民や専門家などの委員21人による、地下水利活用・保全検討委員会を立ち上げ、7月8日（金）に初会合を開催しました。地下水を保全しながら、まちづくりりに生かすことを目指すもので、平成30年度中に基本方針を取りまとめる予定です。



7月25日（日）に、地下水利活用・保全検討委員会による現地視察が行われました。委員や市・県の関係者ら約20人が、市内12カ所の掘抜き井戸や水源を見て回り、地域住民らから聞き取りを行いました（写真は津島名水）

なぜなに地下水

Q & A



Q 小浜では地下水がどんなことに使われているの？

A 小浜の各家庭やお店、事業所などの水道は、すべて地下水を水源としているんだよ。他にも、消雪装置に地下水が使われているんだ

Q なぜ地下水調査をしたの？

A 私たちがこれから先も地下水を上手に使い続けられるかどうかを知るために、地下水環境と水道水源の安全性を調べたんだよ

Q 地下水調査の結果は？

A 井戸や海底に地下水が確認され、「現状の使用では、小浜の地下水環境は収支バランスがとれ、おむね健全」という結果が出たよ

Q 昔と比べるとどうなの？

A 都市化が進んでいなかった昭和30年代と比較すると、水量は減っているんだ。昔も今も大切な水資源を、みんなが一丸となって守っていくことが大切だよ

Q ほかにどんなことが分かったの？

A 今回の調査で、今後、どこで水を汲むと、どこ地下水や水源に影響が及ぶかなど、シミュレーション予測が可能になったんだ

Q 私たちにできることは？

A 水道の水を出しっぱなしにしない、家族で水資源の大切さを話し合うなど、普段の生活の中でできることから始めてみよう



地下水利活用・保全検討委員
市民公募委員
馬場 淳子 さん（52歳・大宮）

東京から移住した当時から、小浜の地下水と、それを生み出す山の自然は、豊かで魅力的だと感じていました。

小浜で生まれ育った人には、これが標準なので魅力に気づきにくいと思います。学校の体験学習などでその価値を伝える必要があります。

子どもの頃から地元の水の良さを学び、育つことで、資源を守り、次世代に継承しようとする気持ちも生まれるのではないのでしょうか。

活用については、単に水そのものを売り出すのではなく、水を使ってブランド野菜を育てるなど、目に見える取り組みが良いと思います。「水を守ろう」よりも、例えば、「ホテルのいる水源を守ろう」のほうがイメージが湧きやすく、地域の人の意識が高まり、保全の動きにもつながると思います。

そのためにも、まずは今回の調査結果を、市民の目線で、広くわかりやすく伝えてほしいです。

地下水の価値子どもの頃から学ぼう

大切な水資源みんなで保全や利用を

小浜の水の豊かさは、食や伝統行事など、水に基づく多様な文化が生まれていることにも表れています。産業や市民生活も多くが地下水でカバーされており、その価値は、経済的な観点からも高いと思います。

一方で、小浜の基盤は水の豊かさの上に成り立っているというもろさもあります。地下水を守ることが、生活を守ることにつながるとい

う市民意識を、いかに高めていくかが課題です。

過去に地下水の枯渇を経験している地域は、地下水に対する市民意識がとて高い。でも、枯渇などの問題が起こった地域では、水を「守る」としかできません。

今回の調査で、小浜の地下水は健全な状態だという結果が出ました。現状より揚水量を増やさず、節水すれば、その分を「利活用」することができると。そのためにも、まずは、市民みんな大切な水資源の保全を考えていきたいですね。



地下水利活用・保全検討委員
福井県立大学海洋生物資源学部准教授
田原 大輔 さん（45歳・一番町）